

目次

はじめに

- 『協働物語』～虹色に輝くまちづくりのために～ 1

第1章 協働によるまちづくりとは

- なぜ、指針を策定するのか 2
- なぜ、いま協働が必要なのか～共同から協同・協働へ～ 3～6

第2章 協働のために大切なこと

- 協働の5つの基本原則 7

第3章 協働の担い手と役割

- 1. 市民の担う役割 8～10
 - ◆個人としての市民の役割 8
 - ◆自治会・コミュニティの役割 9
 - ◆企業の役割 9
 - ◆NPOなど市民活動団体の役割 10
- 2. 行政の担う役割 11～12
 - ◆行政の役割 11～12
- 「協働」の領域イメージ 13

第4章 協働を進めるために

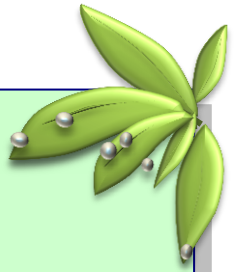
- プロセス1：情報を得る（知る） 14
- プロセス2：意識を高める（学ぶ） 15
- プロセス3：夢を描く（集う） 16
- プロセス4：夢を実現させる（創る） 17
- プロセス5：成果を振り返る（確かめる） 18
- 協働による取り組みを推進していくための5つのプロセス 19
- 今後の事業展開（イメージ） 20

おわりに

- 『協働のまちづくり』～未来に向けて～ 21

付属資料

- 那須塩原市協働のまちづくり指針策定会議委員名簿 22
- 那須塩原市協働のまちづくり指針の策定経過 22



『協働物語』

～虹色に輝くまちづくりのために～

昔むかし那須塩原は、ススキやシノが自生する荒野が広がり、後背の険しい山々から、水が流れ出るとくわすかな土地に、ほんの少しの人が住むところでした。

こんな土地に、開拓の希望に燃える人々が移り住み、助け合いながら暮らし始めました。

みんなで茅葺屋根を葺き替え、みんなで道をつくり、四季に従い畑を耕し、山仕事をしながら、自然に対する祈願と感謝の祭りを、力を合わせて行っていました。

やがてより多くの人々が住むようになり、ついにはみんなの力を合わせ荒れた野に水を引き、豊かな農地が広がる大地としました。

一人ひとりの個性ある色が混ざり合うことなく寄り添って、虹色の光を放っていたのです。

時は流れ、那須塩原にも多くの工場ができ、勤める人が増えてきました。

駅のまわりや大きな道沿いの便利なところに住む人が多くなりましたが、働く場所も時間もそれぞれ違っていき、今までのようにみんな同時の共同作業ができなくなってしまいました。

そこでみんなは、まちづくりに必要な費用を負担し、役所に地域の仕事の一部を任せることにしました。

しばらくすると、「地域づくり」や「地域活動」を通してつながっていた、みんなと役所、みんなとみんなの関係が希薄なものとなり、今まで輝いていた那須塩原は、その色を失いはじめたのです。

そこでみんなは、自分たちのできる範囲で、昔培った助け合いのこころを思い出しながら、まちづくりに参加していきました。

すると那須塩原は、虹色の輝きを取り戻しはじめたのです。

那須塩原はみんなの個性が輝くまち、「虹色に輝くまち」でなければならないのです。

これから先、那須塩原が何色になるかは私たちしだいです。

個性あふれる色を持った協働のまちづくりの主役は、私たちなのですから…。

